

Hollywood

1947

1-9 人 | 10-45 分(約 5 分/人数)

イントロダクション

時は 1947 年。あなたはハリウッドの活気あふれた映画製作業界の一員です。しかし、あなたが所属する小さな制作スタジオには、共産主義者(COMMUNIST)が隠れていて、映画に「非愛国的な」プロパガンダ(思想の誘導)を潜ませるのではないかと疑われています!あなたのスタジオが閉鎖される前に、共産主義者とされる人物をすべて見つけることができるのでしょうか?それとも、あなた自身が共産主義者と疑われ、ハリウッド・ブラックリストに載り、業界から永遠に追放されてしまうのでしょうか?

内容物



ジャンルポスター×15



フィルム×9



プロパガンダカード×60



職業カード×9



ロイヤリティカード×9



スターダイス×9



製作トークン×4

準備

職業カードをシャッフルし、各プレイヤーに1枚ずつ配り、プレイヤーのそばに表向きで置きます。残りの職業カードは表向きにしてテーブルの中央に並べます。

以下の表に基づいて、ロイヤリティカードのデッキを作成します。シャッフルして各プレイヤーに裏向きで1枚ずつ配ります。プレイヤーは自分のロイヤリティカードは見ることはできますが、他のプレイヤーに見せてはいけません。残りのロイヤリティカードをゲームから取り除きます。

	PATRIOT (愛国者)	COMMUNIST (共産主義者)	RISINGSTAR (期待の星)
1プレイヤー	1		
2プレイヤー	1	1	
3プレイヤー	2	1	
4プレイヤー	2	1	1
5プレイヤー	3	2	
6プレイヤー	3	2	1
7プレイヤー	4	2	1
8プレイヤー	4	3	1
9プレイヤー	5	3	1



すべてのプレイヤーは目を閉じ、ゲームマスター(プレイヤーから任意で決める)は共産主義者に目を開けてお互いを確認するよう指示します。その後目を閉じ、全員そろって目を再度開くよう指示します。

プロパガンダカードをシャッフルし、各プレイヤーに3枚ずつ配ります。残りのカードは裏向きで中央に山札として置きます。プレイヤーは自分のプロ

プロパガンダカードは見ることはできますが、他のプレイヤーに見せてはいけません。配られたカードはプレイヤーの手札となります。今後特に言及しない限り、「デッキ」、「カード」、および「手札」は、これらのプロパガンダカードを指します。

各プレイヤーにスターダイス(以降ダイス)を 1 個ずつ配ります。各プレイヤーはダイスを振って自分の前に置きます。



ジャンルポスターをシャッフルし、裏向きにして中央に山札として置きます。

4 つの製作トークンと 9 枚のフィルムを中央に配置します。



概要

ゲームは最大 7 ラウンド行われます。ラウンドごとに、ジャンルポスターが示すジャンルの映画を作成します。プレイヤーはそれぞれ、職業に合わせた独自の仕事を遂行するか、ダイスを振り直すかを選択します。すべてのプレイヤーの手番を行った後、ダイスに星が出ているプレイヤーは、手札からカードを 1 枚ずつ裏向きで中央に置き、重ねていきます。これらのカードはシャッフルされた後に公開され、愛国者(PATRIOT)シンボルの総数と共産主義(COMMUNIST)シンボルの総数とを比較します。各ラウンドのジャンルポスター右下部に示されたシンボルも合計に影響します。

あなたが愛国者なら、あなたの目標は、愛国者のシンボルが多数を占める映画を 4 本作ることです。あなたが共産主義者なら、あなたの目標は、共産主義のシンボルが多数派(または同数)の映画を 4 本作ることです。あなたが期待の星(RISING STAR)である場合、あなたの目標は沢山の映画を製作することであり、可能な限り愛国者と共産主義者の対立を維持することです(これについては後で詳しく説明します)。いずれかのチームが目標に達した時点でゲームは終了します。

本作は戦略が重要な招待隠匿ゲームです。プロパガンダカードやロイヤリティカードは誰にも見せてはいませんが、映画に入れる(手札から中央に置いて重ねる)プロパガンダカードや自身の所属(愛国者なのか共産主義者なのか、期待の星なのか)は言葉では何を言っても構いません。**ゲームの中では自分がどのカードを映画に入れたのかについて議論を行い、それに基づいて戦略を立てることが推奨されます。**ただし、大部分のプレイヤーは愛国者であるため、共産主義者や期待の星は、目標を達成のために嘘をつくでしょう。

ゲームの進行

ゲームは最大 7 ラウンド行われます。ラウンド毎に映画が 1 つ作成されます。1 つの映画ごとに、次のプロセス(製作、ポストプロダクション、公開)が発生します。「映画の中にカードを追加する」とは、プロパガンダカードを裏向きにして中央に重ねて置いていくことを示します。

1 | 製作

職業カードの番号が最も小さいプレイヤーから始まり、**テーブルを時計回りに進み**、各プレイヤーは手番を行います。手番では、次の 3 つのオプションのうち、いずれか 1 つを選択するか、パスすることができます。

オプション 1: 仕事の遂行

ゲーム内のプレイヤーによって担当されていない職業がある場合、その職業による仕事はこのラウンドでは遂行されません。

ルール上、「任意のプレイヤー」は自分自身が含まれます。



1. **脚本家(Screen writer)**ジャンルポスターを 2 枚引き、密かに 1 枚を選んで公開し、テーブルの中央に置きます。もう一方のジャンルポスターは裏向きでゲームから取り除きます。他のプレイヤーは、取り除いたジャンルポスターについて、右下のシンボル以外の内容(ジャンルの名前、デザインの詳細など)について脚本家に尋ねることはできません。
 - 脚本家がない場合(またはそのプレイヤーが自分の手番で別のオプションを選択した場合)、ジャンルポスターは単にジャンルポスターデッキの一番上から公開され、この時点でテーブルの中央に置かれます。
2. **プロデューサー(Producer)**任意の 2 枚の職業カードを入れ替えます。これらには、中央に置かれた職業(ゲーム内のプレイヤーによって担当されていない職業)カードだけでなく、自分自身を含む任意のプレイヤーの職業カードを入れ替えることができます。プロデューサーが自分の職業を別のプレイヤーと交換する場合、(当初の)プロデューサーは、別のプレイヤーが新しい仕事(プロデューサーにとっては新しく手に入れた職業)をまだ遂行していなければ、すぐに新しい仕事を遂行できます。
3. **ディレクター(Director)**任意のプレイヤーに製作トークンを渡します。同じプレイヤーが連続してトークンを受け取ることはできません。(製作トークンについては 10 ページで説明しています。)

4. **照明主任(Gaffer)**任意の 3 つのダイスを振り直します。他のプレイヤーとは異なり(オプション 3 で詳しく説明します)、照明主任は、それらの振り直しとして、同じダイスを複数回振り直すことができます。(1 つのダイスを 3 つのダイスとみなして 3 回振り直すことが可能)
5. **カメラマン(Cinematographer)**任意のプレイヤーにすべての手札を捨てさせ、新しいカードを引くように強制します。
6. **女性俳優(Actress)** 任意のプレイヤーにデッキから 2 枚のカードを引き手札に加え、その後手札から 2 枚のカードを捨てる機会を与えます(「引くだけ」や「破棄だけ」は不可)
7. **男性俳優(Actor)**任意のプレイヤーにデッキから 2 枚のカードを引き手札に加え、その後手札から 2 枚のカードを捨てる機会を与えます(「引くだけ」や「破棄だけ」は不可)
8. **作曲家(Composer)**デッキからカードを 2 枚引き、1 枚を裏向きにして映画に入れ、もう 1 枚を捨て札とします。
9. **編集者(Editor)**職業カードを中央に近づけて、本ラウンドで製作する映画を編集するかどうかを示します(詳細は 6 ページで説明します)。

オプション 2: キャリアチェンジ(自分の職業カードと中央の職業カードを交換)

あなたの職業を中央に置かれた職業と交換できます。

キャリアチェンジも手番を消費するオプションなので、キャリアチェンジをした場合、次のラウンドまで新しい職業の仕事を遂行することはできません。9 人用のゲームでは、キャリアチェンジは使用できません。

オプション 3: 2 つのダイスの振り直し

任意のダイスを最大 2 つ(1 つでも可)、それぞれを一度に振り、所有者に戻します。同じダイスを 2 回以上振り直すことはできません。任意の 2 つのうち、1 つは自分のダイスも選択できます。

2 | ポストプロダクション

全員の手番が終わったら:

1. **ダイスに星があるプレイヤーは、必ず 1 枚のカードを裏向きにして映画に追加します**

次に、(ディレクターから受け取った)製作トークンを持っているプレイヤーは、任意で製作トークンを中央に戻して、追加のカードを裏向きにして映画に直接追加することができます(ダイスに星が表示されていなくても)。

2. **デッキの上から 1 枚のカードを裏向きにして映画に追加します**

作曲家が映画にカードを追加するオプションを使用した場合は、この手順をスキップしてください。

3. シャッフルして映画から 1 枚のカードを取り除きます

映画のカードをシャッフルし、ランダムに 1 枚捨てます。編集者が自分の仕事を遂行することを選択していた場合(中央に職業カードを近づけていた場合)は、ランダムに選んだ 1 枚のカードを、すぐには捨てずに、編集者に密かに見てもらいます。編集者は、カードを破棄するか、映画に戻すかを選択することができます。カードに戻す場合、カードは再びシャッフルされ、ランダムなカードが 1 枚捨てられます。

3 | 公開

1. 残った映画のカードを公開して、ラウンドの勝者を決定します

公開されたシンボル(そのラウンドのジャンルポスターの右下にあるシンボルを含む)の総数が多いチームがそのラウンドの勝者です!シンボルの総数が同数の場合、共産主義者チームがラウンドに勝利します。勝利チームのフィルムをジャンルポスターの上に配置して、ラウンドの勝利チームを示します。

2. カードに含まれる「議会公聴会(Congressional Hearing)」と「職業交換(Shake-Up)」を確認します

映画の中に 1 枚以上の「議会公聴会」カードが公開された場合、すべてのダイスを振り直します。それ以外の場合は、ダイスはそのまましておきます。映画で 1 枚以上の「職業交換」カードが公開された場合、すべての職業カード(中央のものを含む)がシャッフルされ、再配布されます。

3. 手札の補充をします

最後に、手札が 3 枚未満の場合は、3 枚まで手札をデッキから補充します。

本ラウンドでプレイしたすべてのカードを破棄し、上記の手順を繰り返して映画製作を続行します。

捨札に関する重要な注意事項

このゲームでは通常、捨札は再使用しません。ルール上でカードを「捨てる」「破棄する」と言うときは必ず離れた場所に裏向きに置かなければならず、他のプレイヤーにカードを見られたり、誤って手札に補充されたりすることを避け



てください。山札がなくなったら捨て札をシャッフルして山札を作り直します。

ゲームの終了



いずれかのチーム(共産主義者または愛国者)が4ラウンド勝利すると、その瞬間にそのチームが勝利し、ゲームは終了します!

合計7本の映画が作成され(それまでの6本の映画において、3対3で引き分けられたことを意味します)、7本目の映画でシンボルが同点、愛国者のシンボルが+1、または共産主義者のシンボルが+1のいずれかである場合、期待の星が単独で勝利します。愛国者または共産主義者がラウンドに+2以上で勝利した場合、そのチームが単独で勝利し、期待の星は敗北します。

注:1人、2人、3人、および5人のプレイヤーのゲームでは、期待の星はなく、7ラウンドは通常どおりに採点されます。

これでプレイする準備が整いました! ラウンドの例、1~3人のプレイヤーの調整、重要なルールの説明、およびオプションのルールは、必要に応じて以下で読むことができます。

ラウンドの一例

ラウンドの終わりに、3人のプレイヤーのダイスに星が出ているので、それらの3人のプレイヤーはそれぞれ1枚のカードを裏向きにして中央に置いて重ねます。

今回、ラウンド中に作曲家が仕事を遂行し、カードを中央に追加したため、デッキからランダムなカードが追加されることはありません。

編集者は自分の仕事の遂行を選択したので、4枚のカードをシャッフルし、1枚を引いて密かに確認し、それを捨てることにしました。残りの3つが公開されました。カードには「愛国者シンボル×2」、「中立」、「共産主義のシンボル×1」が表示され、ジャンルポスターには「愛国者のシンボル×1」が表示されています。したがってこのラウンドでは愛国者チームが勝利となります(「愛国者シンボル×3」VS「共産主義シンボル×1」)。「愛国者シンボル×2」カードは「議会公聴会」が記載されていたため、次のラウンドを開始する前にすべてのダイスが振り直しされます。



ラウンドの終わりに、4人のプレイヤーのダイスに星が出ているので、それらの4人のプレイヤーはそれぞれ1枚のカードを裏向きにして中央に置いて重ねます。作曲家はこのラウンドで仕事の遂行を選択しなかったため、デッキからランダムなカードが追加されます。編集者は仕事の遂行を選択しなかったため、5枚のカードがシャッフルされ、1枚が無作為に捨てられます。残りの4枚のカードが公開されます。カードには「中

立」、「中立」、「共産主義シンボル×2」、「愛国者シンボル×1」が表示され、ジャンルのポスターには「愛国者のシンボル×1」が表示されています。したがって、共産主義者チームがこのラウンドで勝利となります(「共産主義者シンボル×2」VS「愛国者シンボル×2」。同点のラウンドは共産主義チームの勝利となります)。「共産主義者シンボル×2」のカードは「職業交換」だったので、次のラウンドを開始する前にすべての職業がシャッフルされ、再配布されます。

第7ラウンドの終わりに、2人のプレイヤーのダイスに星が出ているので、それらの2人のプレイヤーはそれぞれ1枚のカードを裏向きにして中央に置いて重ねます。ラウンド中に作曲家が仕事を遂行し、カードを中央に追加したため、デッキからランダムなカードが追加されることはありません。編集者は、3枚のカードをシャッフルし、1枚を引いて密かに確認した結果、映画の山札に戻すことにしました。山札は再びシャッフルされ、1枚のカードが無作為に捨てられ、残りの2枚のカードが公開されます。カードには「共産主義者シンボル×1」と「共産主義者のシンボル×1」が表示され、ジャンルポスターには「愛国者シンボル×1」が表示されています。この時、共産主義者シンボルが多数となりましたが、(「共産主義者シンボル×2」VS「愛国者シンボル×1」)、7番目の映画であり、多数派のシンボルはその差が+1のみだったため、期待の星がゲームに勝利となります。

1-3 人用ルール

1～3人用のゲームでは、すべての通常のルールに従い、次の調整を適用します。

- 各プレイヤーに2つのダイスと2つのランダムな職業を与えます。
- 各ラウンドは、最も番号の小さい職業を所有しているプレイヤーから開始し、テーブルを時計回りに2周(1人プレイ時は2連続で手番を行う)進めます。プレイヤーは自分の手番にどちらの仕事も遂行できますが、同じラウンドで2回仕事を遂行することはできません(プロデューサーによって職業が変わっても)。
 - 脚本家の仕事はラウンドの最初の手番にしか使えないので、脚本家の職業カードが中央に置かれた状態でラウンドが開始される、もしくは脚本家がこのラウンドでその仕事の遂行を選択しなかった場合は、ジャンルポスターをランダムに引いてラウンドを開始する。
- 通常のルールと同様に、仕事の遂行の代わりにプレイヤーは手番で任意の2つのダイスを振り直すか、どちらかの職業(その手番で既に使用した職業を含む)を中央の職業と交換できます。
 - ラウンド終了時に星が出ているダイスを2つ持っているプレイヤーは、中央に2枚のカードを追加する必要があります。
- 「ゴーストプレイヤー」のカードとして、1～3枚のプロパガンダカード(1人プレイ時は3枚、2人プレイ時は2枚、3人プレイ時は1枚)を裏向きにしてテーブルの中央に置き、それぞれのカードの横にダイスを振って置いておきます。ラウンドの終わりにそれらのダイスのいずれかが星を示している場合、そのダイス横のカードが映画に追加、シャッフルされ、新しいランダムな裏向きのカードに置き換えられます。星が表示されていないダイス横のカードは追加されませんが、次のラウンドまでカードはそのまま残ります。また、プレイヤーは手番で、現在のすべてのゴーストプレイヤーのカードを密かに確認するこ

とができます。各ラウンドの開始時に、ゴーストプレイヤーの各ダイスは振り直しする必要があります。1 手番を消費してダイスを振り直す場合、1 つまたは 2 つのゴーストプレイヤーのダイスを選択できます。

3 人用ゲームの場合、共産主義者は 4 ラウンドではなく 3 ラウンド先取で勝利となります。

2 人用ゲームの場合、ゲームから「モンスター(Monster)」と「ホラー(Horror)」のジャンルポスターを取り除き、デッキから「職業交換」以外の 6 枚の「共産主義シンボル×2」カードを取り除きます。2 人用のゲームでは、ラウンドが引き分けで終わった場合、そのラウンドは両方のプレイヤーの勝利としてカウントされます。両方のプレイヤーが同時に 4 勝した場合、ゲームは引き分けで終了します。

1 人用ゲームの場合、ゲームからプロデューサーを取り除きます。

バリエーションルール

ゲームのこれらの高度なバリエーションを試すことができます!

ストライキ: 中立のポスターがラウンドで選ばれるたびに、ダイスに星があるプレイヤーは、ラウンドの終了時に任意の枚数(0~3)のカードを映画に追加し、最大 3 枚のカード(手札上限は 3 枚)を引くことができます。

ランダムロイヤリティ: 9 つのロイヤリティカードをプレイヤーにランダムに配り、愛国者、共産主義者、期待の星がゲームに何人いるかを正確に知ることはできないようにします。一部のゲームでは有利不利が大きく偏ったものになる可能性があります、それは不可能と思われる勝利をより魅力的なものにするでしょう!

厳選された職業: 各プレイヤーが少なくとも 1 つの職業を持つのに十分な職業がある限り、特定の職業をゲームから取り除きます。

重要事項

ディレクター: ディレクターは自分自身に製作トークンを与えることができますが、1 ラウンドおきのみ行うことができます(ディレクターが変わっても、同じプレイヤーが連続したラウンドで製作トークンを受け取ることはできないため)。すべての製作トークンがすでに割り当てられている場合、ディレクターは製作トークンを所有しているプレイヤーから別のプレイヤーに製作トークンを移動させることができます。1~3 人用のゲームでは、ディレクターがゴーストプレイヤーに製作トークンを渡すと、ゴーストプレイヤーは、ダイスに星が無く、製作トークンの効果でカードを追加するときに初めて 1 つの製作トークンを消費します。

編集者:編集者が仕事の遂行を選択した後、プロデューサー(または1~3人用ルール時のキャリアチェンジ)により編集者の仕事を失った場合でも、編集者はそのラウンドで編集の仕事を遂行することができます。

プロデューサー:プロデューサーは、自分自身のプロデューサーという職業、他のプレイヤーの職業、または中央に置かれた職業を含む、任意の2枚の職業カードを交換できます。ラウンド中にまだ自分の手番が来ていないプレイヤーの職業が交換された場合は、自分の順番で新しい仕事を行うことができます。ただし、同じラウンドで同じ仕事を2回遂行することはできないため、既に仕事が遂行された職業を受け取ったプレイヤー(プロデューサーの職業を受け取ったプレイヤーを含む)は、自分の手番ではダイスを振り直すか、自身の職業を中央に置かれた職業と交換することしかできません。プロデューサーが自分のカードを別のプレイヤー(中央の職業カードではなく)と交換した場合、新しい仕事はそのラウンドで既に遂行されていない限り、すぐに新しい仕事を遂行できます。その場合、(当初の)プロデューサーの手番は終了します。詳細については、「編集者」および「脚本家」のセクションを参照してください。

脚本家:脚本家の仕事はラウンドの最初の手番でのみ使用できるため、誰かがラウンドの途中で(職業交換やプロデューサーの交代が原因で)脚本家になった場合、次のラウンドの開始までその仕事を遂行することはできません。

製作トークン:プレイヤーは、製作トークンを使うことで、ダイスに星が出ていなくても、映画にカードを追加することができます。プレイヤーは同じラウンドで複数の製作トークンを使うことができます。製作トークンをプレイするプレイヤー順について議論がある場合は、すべての製作トークンを順番にプレイします(職業カードの最小の数字から開始し、時計回りに進めます)。

歴史

「レッドスクエア(赤狩り)」と「マッカーシズム」の初期に、アメリカ政府は、共産党の党員がハリウッドのエンターテインメント業界に潜んでいるのではないかと疑っていました。アメリカ政府は、彼らによってスクリーンを「非アメリカ的・非愛国的」なメッセージで埋め尽くし、アメリカの資本主義と自由を損なうのではないかと心配していました。アメリカの理想を守るための映画同盟は、映画製作者に映画における「共産主義的タッチ」を避けるように忠告するパンフレットを発行しました。それは「自由な企業経営を中傷するな…産業家を中傷するな…富を中傷するな…利益追求を中傷するな…庶民を神格化するな…コミュニティ(共同体)を美化するな」といった内容でした。

この疑心暗鬼と恐怖が「ハリウッド・ブラックリスト」につながり、著名な俳優、監督、脚本家、およびその他の従業員は、彼ら自身が共産党員であること、共産党員とのつながりがあること、または共産党への共感、という疑いに基づいて解雇されました。ブラックリストに列挙された人物のうち、議会公聴会で証言することを拒否して、その後投獄された作家や監督など最も有名な犠牲者の何人かは「ハリウッド・テン」として知られています。ハリウッド・ブラックリストは、非難と密告が人生とキャリアを打ち砕くハリウッドの暗い一幕でした。

衣装拡張ルール



衣装デザイナーは、ゲーム内の職業として追加されます。自分の手番に、2枚の衣装カードを引いて確認し、1枚を任意のプレイヤーに渡し、もう1枚を捨てることができます。このカードを自分自身に渡すことはできませんが、同じプレイヤーが連続して衣装を受け取ることはできません。衣装カードはいつでも使用できます(衣装カードの条件に該当する場合は手番外で使用する)。使用済みおよび廃棄済みの衣装は、衣装デッキの一番下に置きます。1～2人時のゲームには衣装拡張を使用しないでください。